

LESSON 16

提供された自動車部品の品質不良データ（2026年4月～9月）のまとめをご報告します。全体的な傾向として、溶接工程（主にラインL-02）プレス加工における設備的課題が目立っています。データから読み取れる主な課題と経緯は以下の通りです。

1. 溶接工程（L-02）の慢性的な設備不良と対応の遅れ

現状: 検査員「INS-07」からの報告を中心に、不良種別コード「B2」による「廃棄」処置が恒常的に発生しています。原因: ノズル詰まりや、溶接機の電圧不安定、夏季の高温による条件のズレなどが原因として疑われています。経緯と被害: 4月の段階で溶接機の更新を申請していますが、長く更新待ちの状態が続きました。5月19日には不良品数15件と月間最多を記録し、至急対策会議が要請される事態に陥っています。その後、6月に仮修理を行ったり、新しいワイヤーを試用したりしたものの効果がなく、9月の最終データ時点でも「根本対策がまだ完了していない」状態です。

2. プレス加工（L-01中心）における金型寿命と品質の社外流出

現状: プレス加工では「手直し」で済む不良が多いものの、金型の寿命が疑われており、5月時点で交換が検討されていました。重大インシデント: 6月16日に、ラインL-01のプレス加工において不良種別「C1」の顧客からの返品（出荷後返品・廃棄）が発生しています。品質不良が社外へ流出するという深刻な問題が起きています。

3. その他の工程における注意点

「組付け」「熱処理」「表面処理」などでも散発的に手直しや再検査待ちが発生しています。特に熱処理工程では、特定の材料ロット（M2204など）に起因して廃棄が発生しているケースがあり、注意が促されています。総括: 早急にL-02ラインの溶接機の根本的な更新を進めることと、プレス加工の金型交換を実行し、重大な品質流出（顧客クレーム）の再発を防ぐことが喫緊の課題と言えます。このデータをもとに、報告用のレポートや見やすいスライド資料（Slide Deck）などを作成しましょうか？